

1. 各診療科

内 科

《概要》

【人事】

玉置俊治副院長の指導のもとに内科疾患を担当する。大野昭（部長・内分泌代謝内科）。異動は以下のとおり。2008年8月河本吉満先生着任（医長）、2009年2月梶本忠史先生着任（医員）、2月川野淳院長、離任。

【診療】

外来診療は内分泌代謝疾患を中心に月約500人を診察。入院診療は年177人であった。

〔糖尿病診療〕

糖尿病は主要な血管疾患の母地であり標準的な血糖管理・合併症の検索と血管事故予防を掲げ、医療機関連携のうえで総合的ゲートキーパー機能を兼務している。

〔甲状腺疾患〕

専門家として矢頃綾博士を招聘し外来診療をおこなっている。悪性腫瘍の検出・重症甲状腺代謝異常の対策に実をあげつつある。

〔地域医療〕

第5次医療計画が挙げる4疾病（がん・心血管・脳血管・糖尿病）について対策整備することは当院に資するところ大である。地域の糖尿病診療を最適化し他3疾患の予防・標準治療と整合させることを推進している。泉州2次医療圏の糖尿病地域連携医療協議会（事務局和泉保健所）設立に参加し副委員長に互選されている。

〔総合外来〕

予約・紹介をもたない患者さんの時間内診療に関して、内科医が分担し、江口寛博士の応援を得て外来診察を担当している。

〔救急医療〕

内科各科の常勤医人数が減少し、時間外救急を維持する勤務体制は困難と判断してこのことを上申した。議会の決を経て2008年6月より内科救急を休止するに至った。循環器・脳血管疾患救急は続行している。

救急医療は地域医療の要諦であり、当院の活動目標の中核である。治療水準を確保した再開を期して準備途上にある。

《業績》

(1) 論文 (2008.4~2009.3)

番号 整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Role of the liver in glucose homeostasis in PI 3-kinase p85 alpha-deficient mice.	Aoki K., Matsui J., Kubota N., Nakajima H., Iwamoto K., Takamoto I., Tsuji Y., Ohno A., Mori S., Tokuyama K., Murakami K., Asano T., Aizawa S., Tobe K., Kadowaki T., and Terauchi Y.	Am J Physiol-Endocrinol Metab.	296(4)	E842-E853	2009

(2) 学会発表 (2008.4~2009.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	拠点病院における災害時糖尿病診療計画の策定 (学会会長推薦ポスターおよび口演)	大野 昭	第 51 回日本糖尿病学会年次 学術集会(東京)	2008. 5. 22
2	自己免疫性好中球減少を背景に鑑別 困難な肺感染症を合併した高齢 1 型 糖尿病の 1 例 (口演)	大野 昭 今泉澄人	第 45 回日本糖尿病学会近畿 地方会(神戸)	2008. 11. 22